

第3回自律移動支援プロジェクト推進委員会 議事概要

第3回 自律移動支援プロジェクト推進委員会
議事概要

1. 日 時：平成17年3月17日（木） 14：00～16：30

2. 場 所：ホテルラフォーレ東京 B1F 御殿山ホール

3. 議事次第

1. 開 会

2. 挨 拶

3. 議 事

(1) 第2回推進委員会等の議事録確認、及び第3回委員会のポイント

(2) これまでの検討経緯

(3) 委員長所感

(4) 資料説明

(5) 質疑

(6) その他

4. 閉 会

4. 議 事：

■ 国土交通省技監挨拶

・平成17年度は、神戸、万博のほか東京都や青森県などで実験を行い、平成18年度から本プロジェクトの全国展開を目標に推進していき、世界に発信できるシステム構築を目指す。

■ 委員長挨拶

・プロジェクトの本格展開を行う前に多数の民間サポーターや自治体サポーターの参画を頂き、支持していただいていることに感謝しています。

■ プレ実証実験について

【委員長】

- ・プレ実証実験においては、それぞれの技術の特質や特徴において可能な限り評価実験を実施した。
- ・実証実験の結果を踏まえ、確立した技術については技術仕様の公開をし、技術標準とすることを基本方針としている。
- ・技術標準の策定により、当プロジェクトにおいてオープン性を確保し進めることを基本方針としている。

■ プロジェクト全体の進め方について

【委員長】

- ・来年度の技術評価実験においても、引き続き新技術の提案をお願いしたい。
- ・応用サービス技術に関しても、徐々に技術評価を行っていきたいと考えている。
- ・平成17年度末を目標に技術仕様書（第1版）の策定を目指している。
- ・システムを構築する際、ユーザーの参画によるニーズの吸い上げが重要であり、その意見をどこまで反映できるかがポイントである。

【近畿地方整備局】

- ・コンテンツ作成において、既存データを活用したコンテンツ作成ソフトについて検討が必要ではないか。
- ・全国展開に向けては、公的インフラとしてベーシックな部分と付加的な部分の仕分けが必要である。

【神戸市】

- ・コンテンツ作成において、UD 広場（こうべユニバーサルデザイン推進会議）と連携を図り、ユーザーのニーズに即した内容となるよう検討を進めていきたい。

【竹中委員】

- ・当プロジェクトは、障害を持つ方々を支えるためだけではなく、障害を持つ方々が社会参画し、社会の支え手になれるよう発展していくものと信じている。

【後藤委員】（欠席のため代理紹介）

- ・実証実験は技術的検討に加え、プロジェクトの目的である「いつでも、どこでも、だれでも」利用できるシームレスな情報環境をオープンシステムでつくりあげるために、ICタグを場所に1対1対応させることで様々なサービスを提供するもの」に合致しているかの確認が重要である。
- ・車いすで最短ルート情報がほとんど得られないという実態の中、物理的なバリアフリーが自律移動の必要条件ということであれば、最短ルート情報の提供が十分条件として実現することを願います。
- ・車いす利用者対応の駐車スペースがあるのか、エレベータまでバリアなく行けるかなど、自動車に乗っている段階での情報取得も重要である。
- ・本人の状況にあった最適ルートの検索・表示・誘導や公共施設や地下街、地下駐車場の入り口の標識などにICタグなどを利用して、障がい者向けの情報を発信する仕組みなどの活用策があるのではないかな。
- ・できるだけ多くの障害者、高齢者の方、そして、状況の異なる方々に体験をいただいてご意見を求めている。
- ・障がいに関する専門家の皆様のご意見も大切です。国立身体障害者リハビリテーションセンターなど、各研究機関の皆様のご協力があれば、より実りの多いシステム構築が可能と思う。
- ・行政等々に加えまして、商店街、地域住民の皆様を含めた広い意味での関係者の方々のご協力と参画が大切であり、そのための協議組織づくりや、あるいはバリアフリーのまちづくりといった議論を通じての長期的な取り組みが必要と考える。
- ・ICタグシールを張る位置、高さが、視覚障がい者の方や車いす利用者にとって適切かどうか気になる。また、データ更新・維持管理時のセキュリティ対策はとられているのか。

【月尾プロジェクト顧問】(欠席のため代理紹介)

- ・当プロジェクトでの個人情報保護ポリシーを構築する必要があるのではないか。その検討体制として委員会の下部組織として小委員会を設立し、専門家の協力、ご参画をいただき、個人情報保護に関する検討を進めてはどうか。
- ・「自律移動＝障がい者対応」から「ユニバーサル＝誰でも」への拡大を戦略的に考えていく必要がある。

【大石プロジェクト顧問】

- ・システムのセキュリティに関し、法制度的にすべてに網をかぶせることは困難であり、起こり得る事態に対しどのような対処が必要かを考えながら検討を進めることが重要であり、これらについて確認することも実証実験の意義と考える。

【川嶋委員】

- ・場所情報という考え方は、他の分野においても検討が始まっているが、まとまっていないのが現状である。道路管理、災害、その他の国土管理においてどのような場所情報が必要かを定めることは、大変良いアプローチかと思う。
- ・場所情報に関し、国際的にオープンな議論を始め、国際標準にするための工夫について確認しながら検討を進めるべきである。

【長谷川（貞）委員】

- ・国土交通省のホームページにおいても障害者や高齢者に対する特段の配慮をお願いしたい。特に視覚障害者に対し、PDF ファイルを代替の方法でも読めるようにしていただきたい。
- ・コンテンツの点字化により関心のある視覚障害者が確認できる体制をお願いしたい。
- ・「交通バリアフリー法」に伴う問題として、特に駅ホームからのエスカレーターへの転落予防のための新たな誘導用ブロックの設置方法や、トイレへの案内ブロックの形状について再検討を実施する時期ではないか。
- ・当プロジェクトで使用している端末やシステムと点字装置等との連携についても検討いただきたい。
- ・厚生労働省に対しては、テレビ携帯電話などの活用により視覚障害者の目の前のものを遠隔から千里眼となって見てサポートするシステムの構築を期待する。ユビキタス社会においても、どうしても、テレビ携帯電話などを用い、人の判断力に頼らなければならない場面があるはずである。
- ・経済産業省においては、テレサポートの原理により、千里眼になって視覚障害者をサポートする車椅子使用者などに対し、経済特区の活用により報酬を支払える仕組みについて検討いただきたい。つまり、車椅子使用者が他の障害である視覚障害者を支援し、それが車椅子使用者などの収入を助けることになる。障害者が障害者を支援するシステムである。

【長谷川（洋）委員】

- ・今後、コンテンツづくりが重要な役割を占めると考える。コンテンツの作成に当たっては、地域の障害者の参画が重要となる。

- ・移動において、障害者の知識を生かすことは必要である。
- ・セキュリティの委員会においては、障害者の意見が反映される体制で検討を頂きたい。

【国土地理院】

- ・国土地理院においては、タグの位置を正確にあらわす体系の基準を用意する必要があると考える。
- ・地理情報と IC タグの位置情報をつなぐことにより、より高度な情報提供が可能となるものとする。
- ・実証実験を通じ、これから必要となる基準点の体系について検討を進めたいと考える。

【上野政策統括官】

- ・関係省庁の方々においては、正式に委員としてプロジェクトに参加をいただくこととなり、今後のさらなる展開を大いに期待しています。
- ・関係省庁の方々においては、インテリジェント基準点の整備された実証実験フィールドを活用いただき、それぞれの開発において技術検証の場としていただき、本プロジェクトと連携した多方面の活用を進めていただきたい。

【室城委員（警察庁）】

- ・警察庁としては、歩行者等支援情報通信システム「PICS」と本委員会で検討されている端末との調和について連携を図ることができると認識しています。具体には、横浜の磯子区においてシステムの連携の可能性に関する実証実験を行うことについて協力する用意があります。
- ・歩行者の支援システムについては、実用化、検討段階のものを含めると既に多数存在し、各々にインフラが異なったり、機能が重複するといったことがある。今後のインフラ整備においては、これらの点も十分踏まえ調整していく必要がある。

【藤本委員（総務省）】

- ・総務省としては、超小型チップネットワーク技術の開発を進めており、その研究開発成果が当プロジェクトにも活用されているものと認識している。
- ・比較的長距離通信が可能な 950 メガヘルツ帯のパッシブタグシステムや各種アクティブタグシステムなど ITS に関係する電子タグのアプリケーションについて、電波の可能性に関する研究開発を進めていきたい。
- ・神戸の実証実験エリアにおいて、ネットワークロボットによる街頭道案内を行うアプリケーションについて実験を行いたいと考えている。

【江波戸委員（厚生労働省）】

- ・厚生労働省の組織である国立身体障害者リハビリテーションセンターなどを通じ、障害者の方にとって真に有効なシステム確立に向け連携を図りたい。

【瀬戸委員（農林水産省）】

- ・食品のトレーサビリティや食品の物流の効率化等に IC タグを活用して取り組んでおり

ますが、今後の場所情報の活用について連携を図りたい。

【藤本委員（経済産業省）】

- ・利用者側がモダリティを全く意識せずに順々に乗り移っていけるような、シームレスな環境の開発により連携を図りたい。

【東京都】

- ・平成 17 年度に上野地区、上野公園において、主として観光に力点をおいた実験を検討している。
- ・神戸実験や浅草での観光実験のノウハウを活用させていただき、東京型のプロジェクトとして情報発信をしていきたい。

【青森県】

- ・積雪寒冷地における場所情報システムの活用や運用、また活用の有効性等について検討を進めていきたい。

【民間サポーター】

- ・IC タグやマーカなどが、新しいインフラとしての利用できる技術的な見通しがたち、今後、民間としてどのように利活用し普及させていくかが重要であると認識している。
- ・IC タグ等の利用分野の拡大やビジネスモデルの構築を目的とした研究会を発足させた。これらの取組みを推進していくことが民間サポーターとしても重要と考える。

【国土交通省技監】

- ・平成 18 年度の本格展開を見据え、平成 17 年度の実験プログラムを大事に進めていただきたい。
- ・これからは多くの人と統合化、融合化、普及という形で進めていくことになる。当プロジェクトの進め方においても、幅を持たせながら検討を進めていく必要がある。

【委員長】

- ・当プロジェクトが各省庁間のハブとして機能し、大規模プロジェクトが円滑に推進していくことは、今後の国家プロジェクトの手本となるものとする。

以 上